

7. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北陸)	◎	商店街（代表者）	販売量の動き	・ 今月は前年同月と比較して売上が2けた増加し、好調に推移している。安定したインバウンド需要に加え、国内客による高額品の購入もあった。天候回復による来客数の増加と、高額品販売による単価の上昇が重なり、売上を押し上げる非常に良い流れが生まれている。
	○	一般小売店〔事務用品〕（店長）	単価の動き	・ 個人客の購入単価は高いが、購入数量は少ない。
	○	スーパー（仕入担当）	販売量の動き	・ 季節が変わり、気温の変化に合わせて売れる商材も変化している。最近は安価な商品を中心に買上点数が増えてきているため、単価が上昇しているなかでは良い傾向になりつつある。
	○	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・ 季節が順当に移り変わっており、客は秋冬商材を買い求めている。
	○	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・ 婦人アパレルは季節と気候に影響される業種であるため、秋の深まりとともに客と商品の動きが活発になっている。
	○	家電量販店（店長）	販売量の動き	・ パソコンの現行OSサポート終了による買換え需要が高い。
	○	一般レストラン（統括）	お客様の様子	・ 我が国の首相が新しく決まり、物価高は継続しつつも、ガソリンの暫定税率廃止の方向など日本が少しずつ変わるというマインドがある。10月に3000品目以上の食品が値上げされたにもかかわらず、客の外出頻度は下がっている様子がみられない。また、北陸は観光地化しており、インバウンドは減少傾向だが、相変わらず週末は観光客でにぎわっている。
	○	競輪場（職員）	販売量の動き	・ 前月に引き続き、前年と比べて売上が伸びている。賃上げの影響などで、客の余剰資金が増えているとみられる。
	□	商店街（代表者）	来客数の動き	・ 秋の山岳観光シーズンを迎え、県外客や外国人客の姿が目立っている。加えて、週末ごとにイベントがあるため人流が多い。衣料品店では月後半から急に朝晩寒くなったことで冬物の売上が順調である。
	□	一般小売店〔精肉〕（店長）	販売量の動き	・ あらゆる物価が高くなっているため、牛肉の動きが芳しくない。贈答用も同様で、豚肉や鶏肉にシフトする傾向が強く、これらは非常に動きが良い。
	□	一般小売店〔書籍〕（従業員）	販売量の動き	・ 販売量は下げ止まったままで、良くなる兆しはみられない。
	□	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・ 前月に続いて食品物産催事は過去最高売上を更新した。また、輸入高級時計も好調に推移している反面、秋物衣料品の動きは鈍く売上が低迷している。店全体では前年実績を上回っている。
	□	コンビニ（店長）	来客数の動き	・ 客の視線は変わらず厳しい。特にコンビニは世間的にコスパが悪いという評価であるため、来客数を増やす施策を実施している。
	□	コンビニ（店舗管理）	それ以外	・ 米価格が想定以上に高騰している。また、最低賃金も大幅に上がって、利益を圧迫している。
	□	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・ 客の節約志向が強く、すぐに必要ではない商品の購入には慎重になる傾向がある。
	□	家電量販店（本部）	販売量の動き	・ 現行OSのサポート終了に伴ってパソコンの売上は伸長するものの、全体の売上は横ばいである。市場としては堅調な推移となっている。
	□	乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・ 新車の販売量が依然として増えていない。反面、中古車の販売量が増加する状況が続いている。高額消費に対する客の慎重な様子は変わらない。
	□	乗用車販売店（経理）	販売量の動き	・ 新車については販売台数、売上共に若干増加しているが、中古車サービス等がやや減少し、売上全体では横ばいである。

□	その他小売 〔ショッピング センター〕（統 括）	販売量の動き	・気温の低下に伴って衣料品需要が拡大しているが、全体として大きな変動はない。
□	観光型旅館（経 営者）	来客数の動き	・大阪・関西万博が閉幕した影響か、10月の連休くらいから予約が増えている。
□	観光型旅館（経 理）	それ以外	・前年の1月1日に発生した能登半島地震以降休業状態が続いており、再開までにまだかなりの期間を要する。
□	タクシー運転手	来客数の動き	・秋の行楽で観光客が増えている。インバウンドも多くなっている。
□	タクシー運転手	来客数の動き	・天候の状況や熊の出没などで観光客が減少し、タクシーの利用客も自然と減少するという状況が続いている。
□	通信会社（職 員）	お客様の様子	・客の問合せ内容に特に変化がない。
□	通信会社（役 員）	販売量の動き	・通信、放送サービス共に新規契約数が前年同期と同レベルの数字で推移している。また、解約数は若干落ち着いてきている。
□	美容室（経営 者）	来客数の動き	・客の来店間隔が延びており、結果として来客数が前年割れとなっている。
□	住宅販売会社 （従業員）	販売量の動き	・住宅着工戸数に目立った変化がない。
□	住宅販売会社 （営業）	来客数の動き	・3か月前と比べて、状況が極端に良いわけでも悪いわけでもない。低値安定傾向が続いている。
▲	百貨店（販売促 進担当）	販売量の動き	・食料品は比較的堅調に推移しているが、最近の値上げにより客の購買に慎重さが出ている。ファッションについては人口減少や高齢化、気候状況により依然低調な状況が続いている。
▲	百貨店（販売担 当）	お客様の様子	・来客数はやや改善傾向にあるが、客の購買行動が変化しており、単品購入、低価格商品の選定、購買率の低迷が顕著になっている。また、優待やポイントアップ時期に購入が集中し、それ以外は低調である。客は生活防衛に動いている。
▲	乗用車販売店 （総務担当）	販売量の動き	・前月までに販売した自動車の登録は一定水準で推移しているが、今月は新車の受注状況が厳しくなっている。物価上昇により高額品に対する購買意欲が低下している可能性がある。
▲	テーマパーク （役員）	来客数の動き	・前年にはあった北陸応援割の反動や大阪・関西万博の影響もあり、団体客、個人客共に動きがやや悪くなっている。
▲	住宅販売会社 （従業員）	販売量の動き	・土地に関する問合せや建物の契約数が減っている。工事費の上昇により、新しい土地も高くなり建物価格も上昇しているなか、新築購入時の借入れが4000～5000万円の高額になっており、ちゅうちょする人が増えている。
▲	住宅販売会社 （従業員）	お客様の様子	・客の住宅購入に慎重な姿勢がみえる。物価の上昇が続き先行きが見通せないなか、建築価格も上昇していることで購入のタイミングを計りかねている様子である。
×	商店街（代表 者）	お客様の様子	・大阪・関西万博が閉幕し、観光客数は戻りつつあるが、まだ活気がない。客はこれまで以上に価格に敏感で、単純に値上げしたのでは全く売れない。むしろ、原価が上がっていても目新しさがなければ従来品は値下げせざるを得ない様子である。
×	住関連専門店 （役員）	来客数の動き	・来客数の減少に伴い、買上客数も減少している。週末の来客数減少が止まらない。
×	その他専門店 〔酒〕（経営 者）	販売量の動き	・値上げが続き、物価高が止まらないという状況で、客の財布のひもは更に固くなっている。持ち出しが毎月少しずつあるため、今後経営を続けていけるのか不安な状態である。
×	スナック（経営 者）	来客数の動き	・客足が遠のいている。物価高のため来店を控えているという声が聞かれ、体調を崩しているという客も目立つ。今月の売上は例年の75%で、四苦八苦の状態である。

企業 動向 関連 (北陸)	◎	—	—	—
	○	建設業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・前年より受注量はやや少ないが、利益率の高い工事が受注できている。
	○	金融業（融資担当）	取引先の様子	・総じて多くの業種で増収基調にあり、受注が増加している。又は値上げや単価の引上げが奏功していることがうかがえる。一方で人件費や材料費等のコストも上昇しており、利益率は前年と比べて悪化している場合が多い。
	□	食料品製造業（経営企画）	受注量や販売量の動き	・能登半島地震発生からもうすぐ2年となるが、被災のため失った商売ははまだ戻り切らないままである。
	□	繊維工業（総括）	受注量や販売量の動き	・繊維産業はサプライチェーンが長いため、米国の関税引上げの影響はまだ顕在化していないものの、中国市場の低迷が長期化している。また、スポーツやアウトドア向け製品は堅調な状況が続いている。
	□	化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・受注量は3か月前と比べて変わらず推移している。
	□	電気機械器具製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・新製品の引き合いはある程度あるが、目先の試作対応案件が多く、量産化の日程が開示されていないものが多い。また、車載製品に関しては、予定が3～4か月単位で後倒しになっており、新規量産用金型の受注や設備起工が進まない状況である。
	□	輸送業（経理）	取引先の様子	・取引先に運賃交渉をするものの、価格が上昇しない。
	□	通信業（営業）	受注量や販売量の動き	・株価の上昇とともに設備投資の好調も続いており、業種にもよるが全体的に投資意欲は旺盛である。一括購入が増えている一方で、サブスクリプションの受注量は伸び悩んでいる。
	□	不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・同業者の情報では個人からの問合せが少ないという声が多い。
	□	司法書士	取引先の様子	・年内に会社を解散する手続の依頼や相談が多い一方、若い世代への代表者変更登記の依頼も多い。
	□	税理士（所長）	取引先の様子	・最低賃金引上げにより、人件費の上昇が中小企業に重くのし掛かっている。また、顕著な物価高により、消費者の購買意欲が低下している。
	▲	*	*	*
	×	—	—	—
雇用 関連 (北陸)	◎	—	—	—
	○	*	*	*
	□	新聞社〔求人広告〕（営業）	周辺企業の様子	・株価高などで決算に好影響がありそうな状況ではあるが、本業が好調な企業は必ずしも多いわけではない。引き続き、業種によって差が大きい。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・求職者数、紹介件数、就職者数に大きな変化はないが、前年同月と比較すると有効求人倍率が徐々に下がり続けている。人件費、原材料費、燃料費、水道光熱費の高騰などが影響している。
	□	民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・業種により求人数の増減はみられるが、全体の傾向として大きな変化はみられない。
	▲	人材派遣会社（役員）	求人数の動き	・新規取引件数が前年と比べて減っている。
	▲	職業安定所（職員）	求職者数の動き	・求人数が減少に転じてきたのに対し、求職者数は増加に転じている。特に高齢者が増えている。
	×	—	—	—